

てくテックすさき 令和5年度年間活動報告

令和6年4月3日作成

作成者:NPO法人みんなのコード 牛島

【報告期間】

令和5年4月1日～令和6年3月31日

【開館日数】

193日

【令和5年度運営体制】

・令和5年4月時点

館長1名、副館長1名、アルバイト4名、ボランティア1名

・令和6年3月時点

館長1名、コーディネーター2名(うち1名が須崎市地域おこし協力隊員)、アルバイト7名、ボランティア2名

【利用状況】 ※→は前年度比

・開館からの総来館者数:

3,853名

・年間利用者数:

2,214名

→575名 **増**

・1日あたり平均来館者数:

11.5名

→3.0名/日 **増**

・実人数※施設を利用した個人の数:

219名

→77名 **増**

・利用登録者数・登録率:

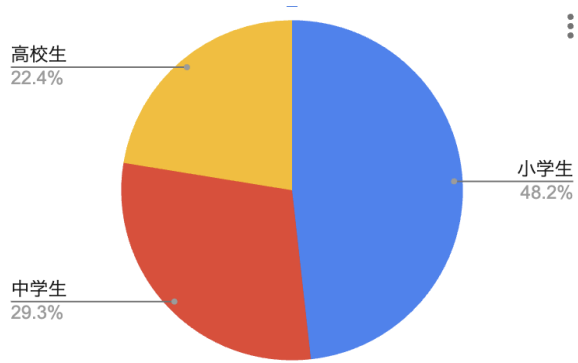
93名・42%

→17名 **減**・36% **減**

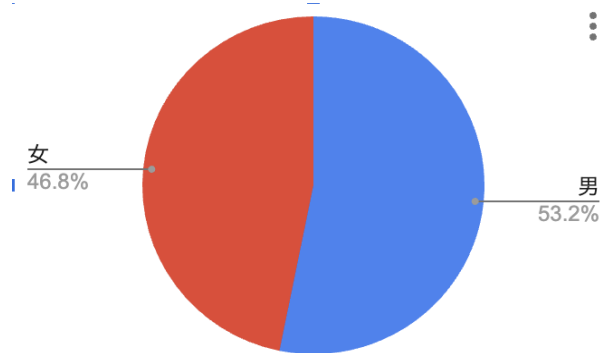
・学校種別利用者数:

小1,067名(48%)・中649名(29%)・高496名(22%)

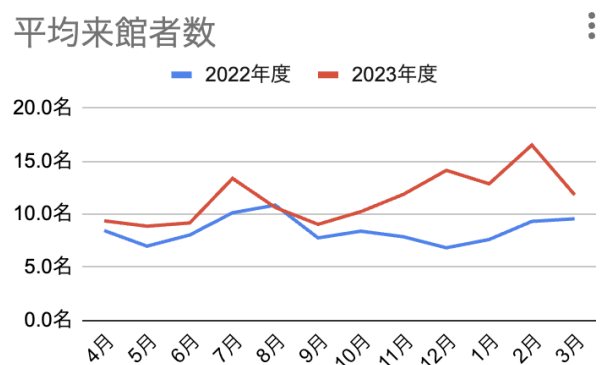
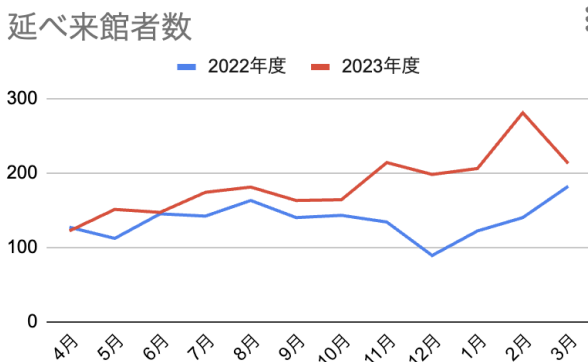
→小266名 **増**・中60名 **減**、高367名 **増**



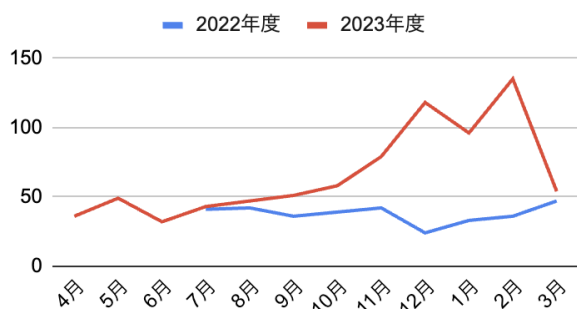
・男女別利用者数：
 男1177名・女1036名
 →男336名増・女242名増



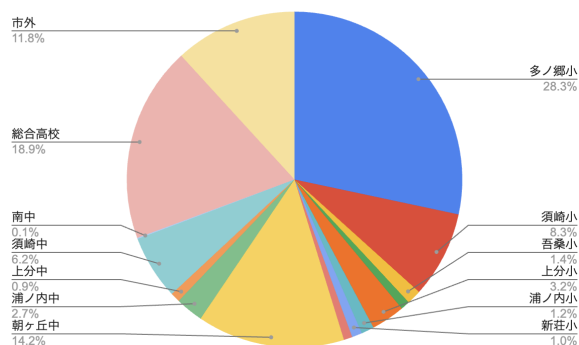
・項目別に見る月毎の推移



実人数推移



学校別延べ利用者数



多ノ郷小: 550名

須崎小: 162名

吾桑小: 27名

安和小: 17名

上分小: 63名

浦ノ内小: 24名

新莊小: 19名

南小: 16名

朝ヶ丘中: 276名

浦ノ内中: 52名

上分中: 18名

須崎中: 120名

南中: 2名

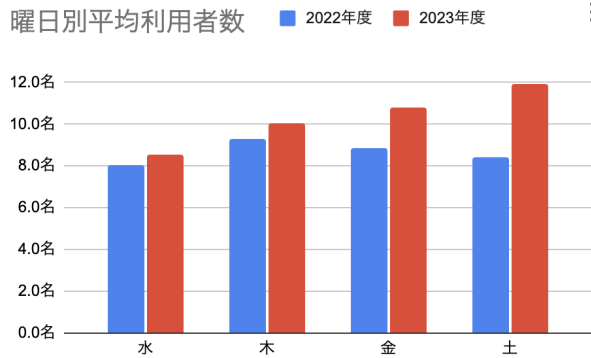
総合高校: 366名

市外・その他: 229名

曜日別1日あたり平均利用者数:

水8.5名/日・木10名/日・金10.8名/日・土12名/日

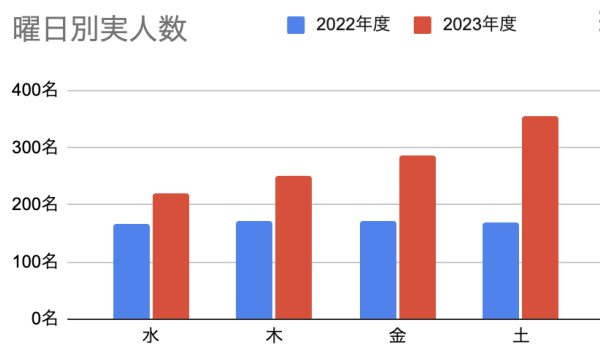
→水0.5名/日増・木0.7名/日増・金2.0名/日増・土3.6名/日増



・曜日別実人数:

水219名・木251名・金287名・土354名

→水53名増・木78名増・金115名増・土184名増



・教育支援センター生徒利用数:

年間合計:402名(全体の約2割)

・利用目的

取り組み内容の目安

【プログラミング】scratch、Hack for play、Unityなど

【イラスト・デザイン】アイビス、クリスタ、Canvaなど

【CAD】TinkerCad、Zbrush、blender、VroidStudioなど

【写真・映像制作】カメラ、Photoshop、premium pro、MMDなど

【音楽】楽器、GarageBandなど

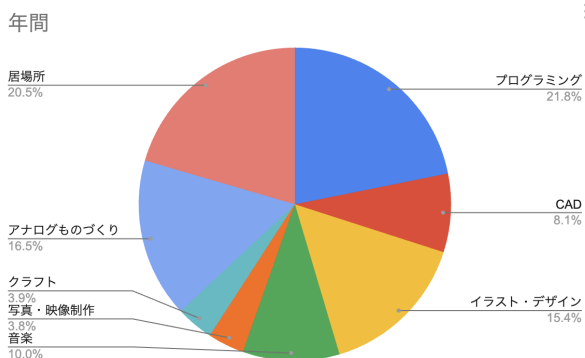
【クラフト・アナログものづくり】レーザーカッター、カメオ、手芸、アイロンビーズなど

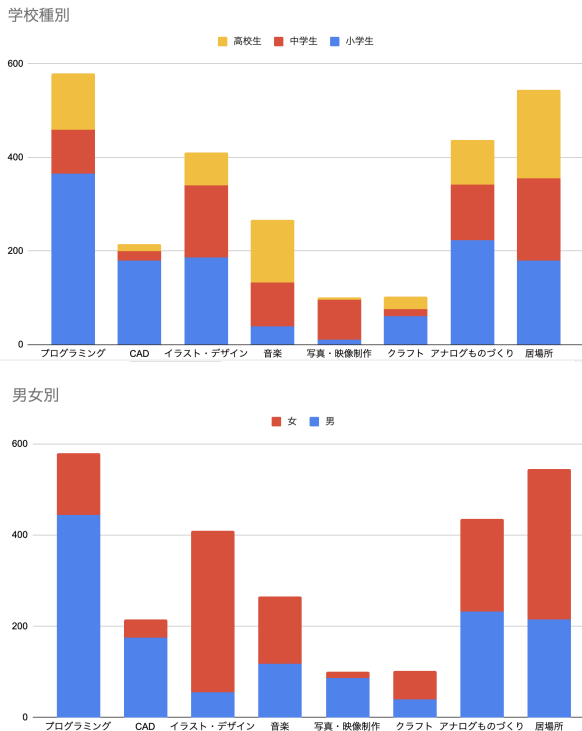
【ゲーム】ブラウザゲーム、スマホゲーム、VRなど

【居場所】宿題、おしゃべり、ボードゲームなど

【キッズデー】キッズデー参加者

【イベント】イベント参加者





・利用状況についての成果と課題

延べ人数、実人数ともに利用者が大幅に増加し、1日平均利用者数の年間平均も10名を越えた。また、今年2月には月間の平均利用者数が16.8名となり、開館時からの目標としていた月間の平均利用者数15名を達成した。さらに、各曜日ごとの来館者数も増加し、特に金曜、土曜の利用が大幅に伸びた。教育委員会と連携して実施した市内公立小中学校の授業受け入れによる利用者増加と、施設周知を目的とした週末のイベント開催が主な要因として挙げられる。

一方で、新規利用者が一斉に利用することにより、支援センター通所生や不安感の高い子どもの利用が減少している。また、授業受け入れ後に施設を訪れた子どもも、継続利用に繋がらない難しさがある。

昨年と比較し減少した登録者数及び登録率については、従来のシステムでは施設を訪れた後、保護者による利用登録書の記入が必要になるため、保護者が書類を提出しない、2回目以降の来館に繋がっていない、保護者の送迎なしに来館が難しいなど様々な要因が考えられる。新年度以降、初来館時に利用登録を保護者に行ってもらい、登録の漏れを防止するとともに、利用者の定着を目的とした取り組みを行っていく。

取り組み内容はプログラミング、イラスト、アナログものづくりと居場所が多く、特殊な機材を用いたものづくりは低い水準となった。子どもたちの成長には様々な段階があり、素材や道具、機械を「いじくりまわす」ことを指す「ティンカリング」を経てデジタルを活用したものづくりを行えるようになることとされているが、3Dモデリングやより高度なプログラミングをする前のティンカリングの段階や、ものづくりをしようと思えるまでの段階にいる利用者も多いと感じる。まずはものづくりに興味を持ってもらい、少しずつデジタルに興味を持ってもらえるようにサポートを行っていきたい。また、学年や性別によって取り組んでいる内容に差があり、館内の雰囲気や他の利用者の様子などから、同属性の利用者が取り組んでいるコンテンツに偏ってしまうという特徴がある。子どもたちが偏見なく様々なコンテンツに興味を持てるようレイアウトやサポート体制を整えていきたい。

【主な取り組み内容】

- ・運営

授業受け入れ:

- 9月27日: 吾桑小学校
- 11月9日: 朝ヶ丘中学校
- 11月29日: 浦ノ内中学校
- 12月21日: 安和小学校
- 12月14日: 上分中学校
- 12月19日: 須崎中学校
- 1月11日: 南中学校
- 2月9日: 浦ノ内小学校
- 2月16日、22日: 多ノ郷小学校
- 1月26日: 須崎小学校

参考(概算):

・授業受け入れをきっかけに利用を開始した利用登録者数:
約30名(須崎小12名、多ノ郷小15名、その他小・中学生4名程度)

・上記利用者の延べ人数:
約120名

・授業受け入れ活動写真:



視察:

- 8月23日: 滋賀県大杉副知事
- 11月15日: Uプロジェクト、高知大学学生
- 11月16日: 北海道東神楽町議会
- 11月22日: 愛媛県庁
- 1月18日: 長野県上田市DX推進課視察
- 1月19日: 須崎市議員研修
- 2月28日: ピコテラス(島根県雲南市)
- 3月21日-22日: デジラボ(北海道釧路市)

その他:

- 6月: Mini送迎プロジェクトの開始
- 6月: 須崎総合高校生徒へのアンケート調査実施
- 6月3日: メンター研修会
- 6月23日: 防災訓練実施
- 7月中旬~: コーディネーター2名の採用(9月~勤務開始)

- 9月28日: 防災訓練実施
- 10月14日: 高知県教育センター主催「新しい時代のICTを活用した学びフォーラム」登壇
- 10月28日: 上分小学校PTA活動
- 10月31日: メンター研修会
- 12月: Mini送迎プロジェクト終了
- 12月3日: 出張てくテックin雲の上の図書館
- 12月8日、9日: ひとり親家庭支援センター食品配布
- 1月17日: みんなのコード利根川、杉野原、市長へご挨拶
- 3月22日: 防災訓練実施
- 3月27日～: 新規利用開始

・企画・イベント

定期開催:

- ゆるテック 音楽コース(22年9月～)
 - プログラミングコース(23年4月～7月)
 - キッズデイ(23年8月～)
 - カードゲーム会(23年10月～)
 - 利用者会議(23年10月～)
 - イラストデイ(23年12月～)
 - Englishフィーカ会(23年12月～)
 - 第5回MinecraftCup出場コース(23年6月～24年2月)
- ヤング部門地区ブロック最優秀賞、全国大会奨励賞受賞

単発開催:

5月:

- 小学校低学年向け はじめてのロボットづくり
- 市民参加講座「ChatGPTってなに？」
- てくテックロボコン
- 第3回野外撮影会

7月:

- てくテック×須崎総合高校「マイOTTOワークショップ」
- micro:bitで工作「お宝探しゲーム」
- 「HTML&CSS講座」

8月:

- 夏休み企画
- てくテックロボコン
- イラスト講座
- キッズウィーク
- おとなてくテックナイト
- 須崎市立図書館 出張イベント

9月:

- 音楽&録音体験

10月:

- すさき市民食堂出張ワークショップ

- MESH™ワークショップ
- ハロウィン作品コンテスト

11月:

- Minecraftワークショップ
- 栲原町雲の上の図書館出張ワークショップ

12月:

- クリスマス作品コンテスト
- 石鹼作りワークショップ
- フィンランドのクリスマスについて親子で聞く会

1月:

- 単発開催:
 - 大学ってどんなところ? & 研究発表会
 - トークイベント: フィンランドの大学事情について
 - うちんくキッチン おかし作り教室 inてくテック

2月:

- トークイベント: フィンランドの教育
- PC解体・組み立てイベント

3月:

- トークイベント: カネリ座談会
- ガールズプログラミングデイ
- TRPG会
- デジタルシチズンシップを知ろう・学ぼう!
- JR須崎駅100周年記念マルシェ参加

特記事項: 低学年受け入れイベント(キッズデイ)実施報告

・実施日程:

2023年8月9日～12日、8月16日～19日、9月23日、10月28日、11月25日、12月23日、2024年1月27日、2月24日、3月23日

計: 15日

・成果

- 教育に関心の高い低学年層の保護者に施設について認知してもらうことができた。
- 参加者は毎回2～10名ほどであり、反応も好評である。
- キッズデイに参加した利用者の兄弟が一緒についてくることもあり、利用者増加の一因になっている。

・課題

子どもの行動と安全確保:

- 基本的な注意事項を守れず、走り回ったり、騒いだりする子どもがおり、安全確保の観点からも小学校5年生以上と比較して手がかかる。

- 同時帯に高度なプログラミングや3Dモデリングなどで困っている利用者への丁寧なサポートが難しくなる。

- エリアやコンテンツを決めていても、兄弟やその他の通常利用の利用者が取り組んでいる内容を見てエリア外に走り出したり、想定していない高学年向けのコンテンツをやりたいと聞かなくなってしまう。

- 通常利用の利用者の中には発達障害等の特別なサポートが必要な生徒もいるが、こうした利用者への適切なサポートが低学年受け入れ時には難しくなる。

通常利用者からのネガティブな反応:

- 利用者からは、小さい子がいると集中できない、危なっかしいというようなネガティブな意見が出ており、不登校等不安感を持った利用者が施設を安心して利用できないと感じている。また、せっかく来てもスタッフが小さな子にかかりっきりになっており話を聞いてもらえない、などの声も聞かれる。

低学年受け入れの目標・目的設定の曖昧さ:

- 低学年受け入れの目標、目的が曖昧であり、具体的なイメージが掴めていない。

- 特に、低学年はデジタルを用いたものづくりをする上で、その土台となるティンカリングを経験する必要があるが、施設として低学年の発達段階に合わせ、どこまでのアプローチを求められているのが曖昧である。

スタッフ:

- 当館スタッフの中には低学年と接したことがないものも多くおり、慣れない業務で疲弊している。

- 低学年と高学年以上とでは、対応するスタッフの専門性は全く異なる能力が必要であり、低学年受け入れに特化した保育士経験者等の人材確保とそのための予算が必要である。

・次回に向けて

- 以降の開催に向け、改めて開催意義や目的について須崎市学校教育課と協議したい。

- 通常開館と開催時間帯を分け、制限されたエリア、コンテンツのみの体験にする。

- キッズデイは通常のメンターではなく、新たにキッズデイ向けのメンターを確保し、保育士やシッター経験者にシフトに入ってもらおう。

- 低学年の対応に経験豊富な他団体とコラボレーションイベントをキッズデイに開催し、スタッフの負担を減らす。

・キッズデー活動写真



総括

【今年度の成果】

・授業受け入れや数多くのイベントを実施した結果、利用者数が大幅に増加した。月間平均利用者数が目標を達成し、年間でも1日あたり10名を越える利用があった。昨年の課題に挙げていた土曜日の利用や高校生の利用者数も増加した。

・利用者それぞれのニーズに沿った様々なイベントを開催した。プロ講師による講座のほか、他団体とのコラボレーションやイベントへの参加、保護者や一般の方向けのイベントも開催し、施設の周知に繋がった。はじめての取り組みとなるキッズデイも安全対策を万全に行い、無事故で終えることができた。

・副館長前田の退任と地域おこし協力隊の募集に伴い、コーディネーター2名を採用し、新体制で運営を行った。運営体制の変更によって、これまで人手が足りなくて取り組めていなかった事案にも時間が割けるようになり、より長期目線で施設運営の戦略を考えられるようになった。また、通報制度や防災、防犯対策、研修、面談などメンターに関わるシステムも整備し、スタッフが安心してより快適に働ける職場環境を作ることができた。

・ひとり親家庭支援センターへの食品配布やJR須崎駅100周年記念マルシェへの参加など、地域社会への貢献活動ができた。また、保護者との面談システムや、地域の方がイベントの開催、寄付等の様々な形で運営に関われる「てくテックサポーター」制度もスタートさせ、地域との関わりを作ることができた。

・年間を通じて多くの視察を受け入れ、当館への全国的な関心の高さを感じる事ができた。

【今年度の課題】

・当館から徒歩圏外の市内在住の子どもの定着率が低く、保護者への理解促進と、該当する子どもたちが施設に来やすくなる仕組みづくりが必要である。

・新規利用者増加に伴い、不安感を抱える子どもたちの居心地が悪くなっている。また、不安感の高い子どもたちを専門的な機関に繋げる手段がない。

・利用者の取り組む内容が、学年や性別によって偏りがあり、偏見なく様々なコンテンツに子どもたちが興味を持てるよう環境改善が必要である。

・保護者や市民への理解は進んだと感じる一方、施設へ来ることをよく思わない教員や、施設を知らない教員が一定数いるように感じる。学校とも綿密なコミュニケーションが取れていない。

・日本財団助成終了後に向けた長期的なビジョンを須崎市学校教育課とともに議論する機会が十分に取れていない。

・須崎市学校教育課からご提案いただいていた部活動としての生徒受け入れについて、進捗がなく実現できていない。

【次年度の計画】

・徒歩圏外在住子どもの定着率向上:

- 保護者向けのイベントや保護者会を開催し、施設の価値を伝える。
- 該当する子どもたちが利用しやすい施策を検討し、実施する。

・利用者の居心地向上と不安感対策:

- 専門的な機関との連携を強化し、不安感の高い子どもたちへの適切なサポートを確保する。また、関連する団体にコンタクトを取り、相互に情報交換し合えるコミュニティを作る。

・コンテンツごとの偏り解消:

- 学年や性別に関係なく、幅広いコンテンツに持ちやすいようレイアウトやメンターの対応を検討する。

- ジェンダーギャップが生まれやすいコンテンツについては、子どもたちの興味を引くイベントを開催する。

・学校とのコミュニケーション強化:

- みんなのコード他部署と連携し、教員向け研修会の当館での実施を行い、施設への理解も深めてもらう。

・長期的なビジョン検討:

- 次年度に向け、日本財団助成終了後の施設の運営方針や展望について議論する機会を増やす。

- 学校教育課からの提案をもとに、生徒受け入れ部活動の実現に向けた具体的な計画を策定し、進捗を確認する。

活動写真:



